

和紙の伝統を新たな形で広める。

市川三郷町は、1000年以上の歴史を持つ障子紙などに使われる「市川和紙」の産地です。当社は、1868年(明治元年)に手すき和紙の生産を始め、手すきから機械化に踏み切った1964年(昭和39年)には、業界初の色つき障子紙を販売しました。その年の秋には東京オリンピックもあり、カラーテレビ放送が開始された年で、色付きの障子紙が新しい文化を感じさせたのか予想以上の売れ行きでした。他にも、ペットがいる家庭向けに破れにくい障子紙や、たこ揚げ用の紙を作るなど、和紙の可能性を追い求めてきました。

私が、5代目の代表取締役に就任した1986年(昭和61年)頃には、障子のない新築住宅が増え、売り上げは年々減少、このままでは伝統ある市川の和紙が衰退してしまうと思い、和紙を活用した新商品を模索し始めました。和紙の柔らかな質感をテーブルクロスに生かせないかと

先代社長が力を注いできた開発を引き継ぎ、和紙に特殊なはっ水加工を施し醤油などをこぼしても汚れをすぐに拭き取れるテーブルクロスを開発しました。紙なので用途に合わせて切断したり使い捨てもでき、さらに、クリーニング代がかかる布製のテーブルクロスに比べて経済性にも優れています。販売は、花模様、無地、桜、雲竜の4つの柄で、高級レストランなどから注文が相次ぎ「高級感もあって華やかになる」との声も寄せられています。

当社の「市川和紙を使った新たなテーブルクロス等の開発・販売」事業は、今年2月に経済産業省から地域産業資源活用事業計画に認定されました。今回の認定を機に、はっ水技術の向上と商品力の強化に取り組み、海外への売り込みも図っていきたいと思います。

私は、週末になると見本商品を車に積み、ユーザーから生の声を聞くために全国を渡り歩いています。情報は足で稼がないと!!。

モノづくりは、本当に面白い。

